

2023/09/16



Public Psychology Lab., University of Tsukuba

日本学会議主催学術フォーラム

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン

自動運転バスは シビックプライドの源泉 になり得るか？

筑波大学システム情報系 社会工学域 教授 谷口綾子

研究背景: シビックプライド

シビックプライド(CP): 市民が都市に対して抱く誇りや愛着

伊藤ら[3]

自分はこの都市を構成する一員でここをより良い場所にするために関わっているという意識を伴う, ある種の当事者意識に基づく自負心



CPは地域住民のまちに対する意識を向上させ、
今後のまちの方向性を考える上で非常に重要な概念である

シビックプライドの源泉(CPの源泉):
CPの拠り所となる場所・もの・こと

地方自治体では,
CPを高めることが、地域の定住人口の増加につながる?
と期待されている

調査対象地域

茨城県猿島郡境町

人口 約24,000人 (2020年10月)

境町のアルマ

さらなる人口の増加・地域活性化を促進するために、
2020年11月、自治体で初めてAVsバスの定常運行を開始

乗車料金：無料
乗車人数：11人
便数：20便/日(2021年11月当時)
停留所数：8か所

- 運行管理：ソフトバンク子会社BOLDLY(株)
- フランスNavya社製『ナビヤ・アルマ』を使用



調査対象地域2： 茨城県境町

自動運転バスアルマ導入後、

- 路上駐車減

- 町民がバス停用地提供に協力

等々、町民の協力のおかげで

スムーズに運行出来ている by佐治さんエピソード



アルマ型パン／お菓子のラッピング箱

境町のアルマ(AVsバス)を介して、
町民のCPが活性化している？

地元のケーキ屋さん試作のアルマ型ケーキ：
photo by佐治さん



境町においてアルマ(AVsバス)が愛されている
＝ CPの源泉となりつつある？

4. AVsが地域のCPに与える影響 アンケート概要

対象者	境町のアルマ沿線居住者
配布方法	ポスティング（回答方法：郵送またはWebフォーム）
調査時期	2021年11月10日～11月30日
調査項目	☐ 基本属性（年齢，性別，AVsの乗車経験など） ☐ 人間疎外_地域 ☐ AVsへの賛否・信頼性 ☐ AVsのリスク認知 ☐ CP尺度（愛着,参画,アイデンティティ,持続願望） ☐ CPの源泉の誇り度 ☐ AVsへの態度・行動意図

境町のシビックプライドの源泉
30項目は,町役場WEBサイトを
参考に選定し,町役場に妥当性を
ご確認いただきました。

アンケート調査項目: **地域疎外**について by羽鳥et. al

「疎外」とは、一般の日常用語では「精神が自己を否定して、自己にとってよそよそしい他者になること」(『広辞苑』「疎外」参照)を意味するものとして用いられている。すなわち、人間が本来あるべき自己の本質を奪われ、自己にとって疎遠であるような精神状態を表す言葉として用いられているのであるが、この日常的な「疎外」の概念は、そもそも近代社会に特有の精神現象として、マルクスやエンゲルスらをはじめとした様々な論者によって批判的に論じられてきたものである。これらの論者は、近代において、産業化と分業化が進展する一方で、人間の精神が産業システムによって差配され、その主体性を喪失している状況に、人間の「疎外」を見て取り、そこに批判を加えんとしたのであった。ただし、哲学上の問題として初めて体系的に「疎外」(alienation、Entfremdung)という概念を論じたのは、Hegel であった(池田, 1982)。

Hegel は、その著書『精神現象学』(1807)において、近代化をもたらした精神史的な契機として「人間疎外」の問題を提起している。すなわち、**Hegel は、産業革命を起点として、人々が共同体的束縛から解放され、本来一体であるべき共同体から「疎外」されることを通じて、近代における人間精神が形成される**ものと論じている。そもそも Hegel において「人間疎外」とは人間の精神がその本質を喪失した状態を表しているのであるが、そのHegel が言うところの「精神の本質」とはどのようなものであったのであろうか。この点に関しては、次の一節からも伺い知ることができるように、Hegel は「精神」を本質的に共同体的なものであると捉えている。「絶対の精神的存在たる共同体が、同時に現実の意識として存在し、自分のすがたを対象化するに至ったとき、それこそが精神なのである。(Hegel, 1807; 長谷川訳1998, p. 297)(1)」

Hegel によれば、本来、共同体的なる「精神」にあえて「共同体」という言葉が付与される「共同体精神」とは、「個と共同体の生き生きとした直接の統(p.325)」が実現し、個人と共同体が一体的、有機的に機能している状態に対応するものである。それ故、そうした**共同体精神とは、彼の別の表現を用いれば、「われ」が「われわれ」であり、「われわれ」が「われ」であるような経験(p. 128)」に基づくもの**であると言える。

さらに Hegel は、近代においては、人々の精神が共同体から遊離し、そうした共同体精神から人々の精神が「疎外」されていくことを通じて、近代的な「個人」が成立するという過程を論じている。そうした「個人」は、「共同体が意識の外へ押し出された存在(p. 330)」として捉えられる。

なお、Hegel の論ずる「人間疎外」とは必ずしも否定的な意味のみを有するのではなく、人間精神の形成において積極的な役割もまた担っていることが指摘されている(長谷川, 1999; 加藤編, 1983)。すなわち、共同体から疎外されている個人は、そうした自己自身を「疎外」することによって、共同体と再び一体化し、これらの共同体との関わりを深めていくものと考えられている。この点について、Hegel は、「自己意識は自分を疎外するかぎりでも…共同体にふさわしい存在になる(p. 334)」と述べており、こうした自己の疎外過程を「教養」と呼んでいる。

Hegel の叙述する精神の歴史的形成史においては、このような「疎外」ないし「教養」は、ローマ帝政期に見られる、共同体が形骸化し、ばらばらに拡散した個人が絶対的な法権力の支配に服する状態を脱し、近代において共同体精神を実現する上での不可欠な過程として位置づけられている。ただし繰り返しとなるが、**精神とは本来的に共同体的なものである以上、そこから疎外されたままの精神は、「死せる共同体精神(p. 325)」であり、本来的な精神の状態にあるとは言い難い**。しかも、人間精神において教養が教養たり得るにあたっては、上記のように、一旦疎外化した後に共同体と再び一体化するという過程が想定されている以上、疎外の積極的役割を勘案した上でもなお、Hegel が疎外されたままの精神を肯定的なもの捉えているとは考え難い。

疎外尺度: 共同体から疎外されている(共同体と一体感を感じない)度合いを測る心理尺度

アンケート調査項目：地域疎外 尺度

人間疎外 _ 家族 ($\alpha = .72$)

- 自分と自分の家族とは一心同体だという感じがする。 (一心同体感) +
- 家族とは、家族の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う。 (共同体全体の非認知)
- 自分は自分の家族というものをとても身近なものとして自然に感じる。 (共同体への親近意識) +
- 結婚した人はその新しい家族に自らをなじませるのが当たり前だと思う。 (自己断念) +
- もしも自分一人の利益と家族全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか。 (共同体への奉仕) +

人間疎外 _ 組織 ($\alpha = .75$)

- 自分と自分の住んでいる地域とは一心同体だという感じがする。 (一心同体感) +
- 地域社会とは、地域の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う。 (共同体全体の非認知)
- 自分は自分の住んでいる地域というものをとても身近なものとして自然に感じる。 (共同体への親近意識) +
- 自分が住んでいる地域に自らをなじませるのは当たり前だと思う。 (自己断念) +
- もしも自分一人の利益と自分の住んでいる地域全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか。 (共同体への奉仕) +

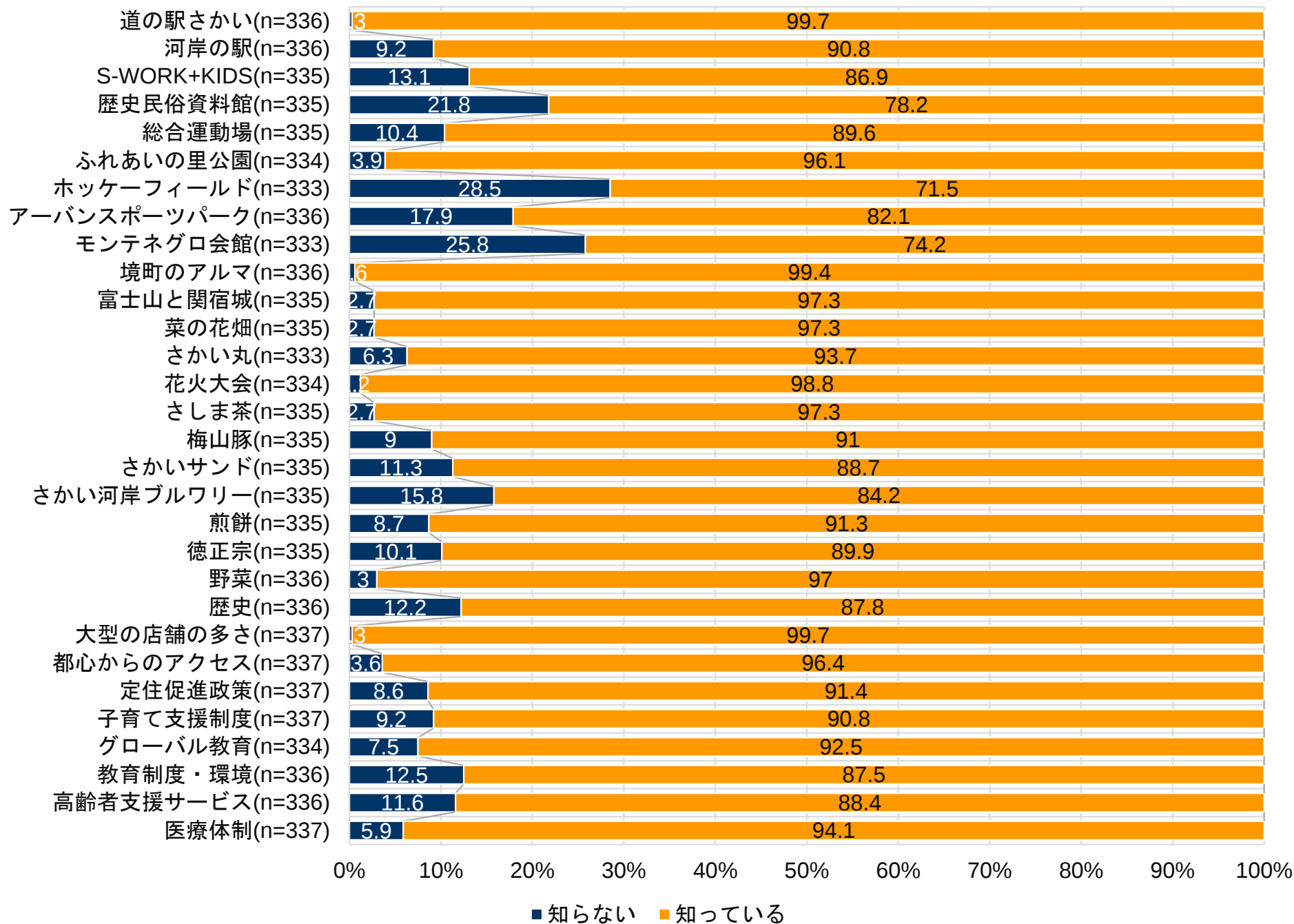
人間疎外 _ 地域 ($\alpha = .78$)

- 自分と自分の属する組織 (企業・学校等) とは一心同体だという感じがする。 (一心同体感) +
- 企業や学校等の組織とは、組織の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う。 (共同体全体の非認知)
- 自分は自分の所属する組織 (企業・学校等) というものをとても身近なものとして自然に感じる。 (共同体への親近意識) +
- 自分が所属する組織 (企業・学校等) に自らをなじませるのは当たり前だと思う。 (自己断念) +
- もしも自分一人の利益と組織 (企業・学校等) 全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか。 (共同体への奉仕) +

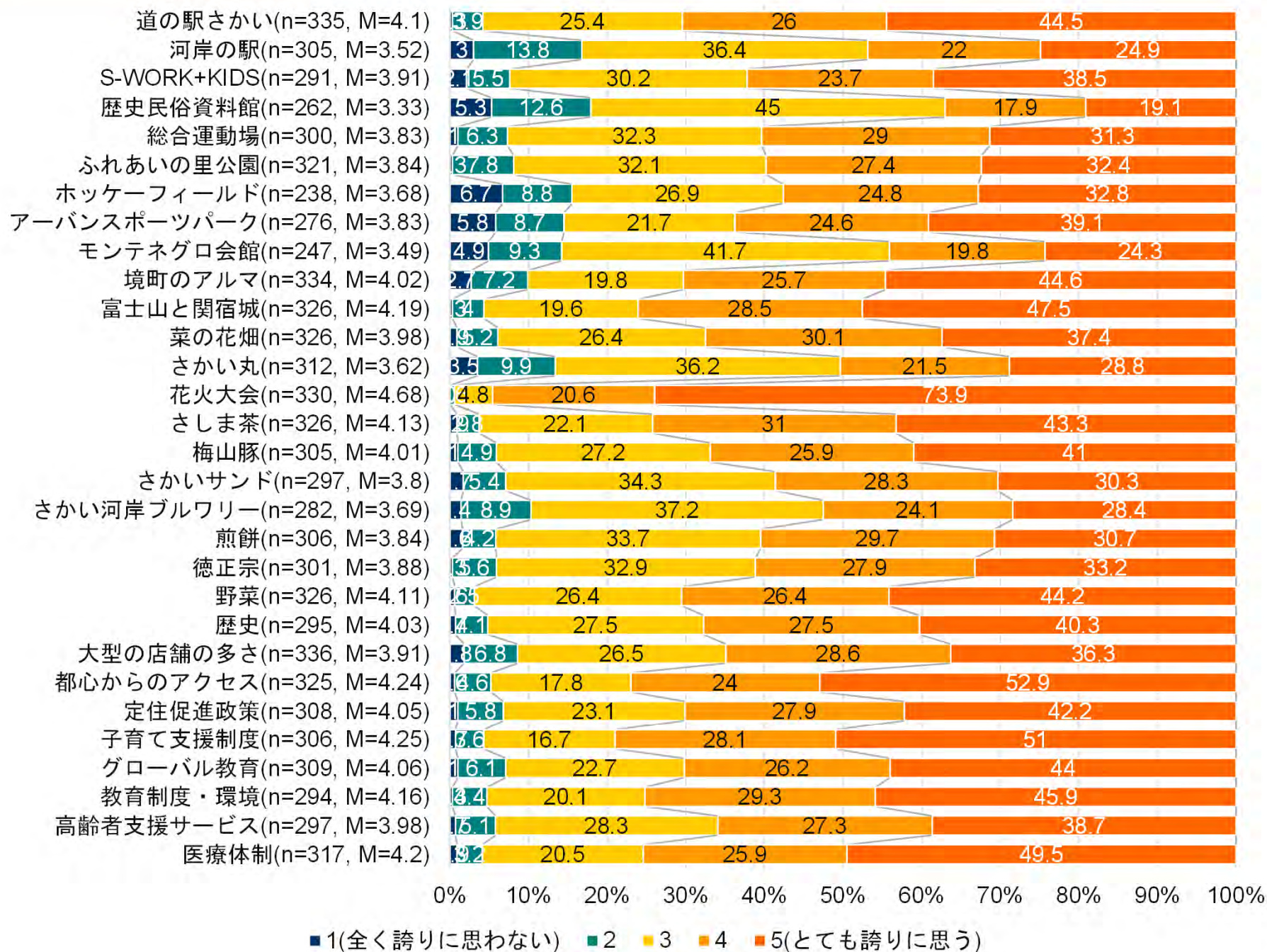
人間疎外 _ 国家 ($\alpha = .78$)

- 自分と国家とは一心同体だという感じがする。 (一心同体感) +
- 国家とは、国家の中の一人一人の人間関係の集合にしかすぎないと思う。 (共同体全体の非認知)
- 自分は国家というものをとても身近なものとして自然に感じる。 (共同体への親近意識) +
- 自分が住んでいる国家のあり方に自らをなじませるのは当たり前だと思う。 (自己断念) +
- もしも自分一人の利益と国家全体の利益が対立したら、どちらを優先しますか。 (共同体への奉仕) +

CPの源泉_認知度



CPの源泉_誇り度

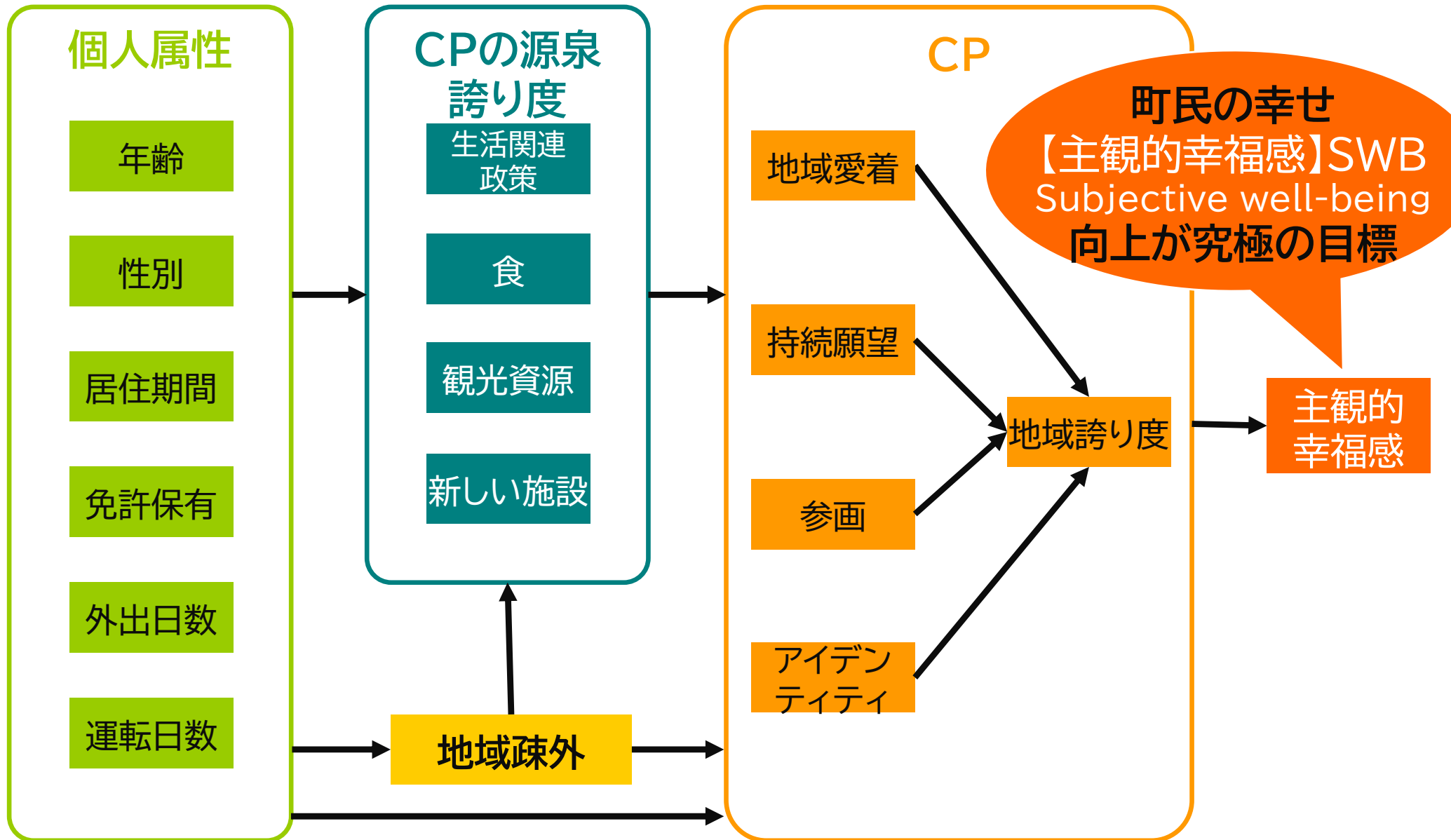


CPの源泉_因子分析：30項目の似たものの探し

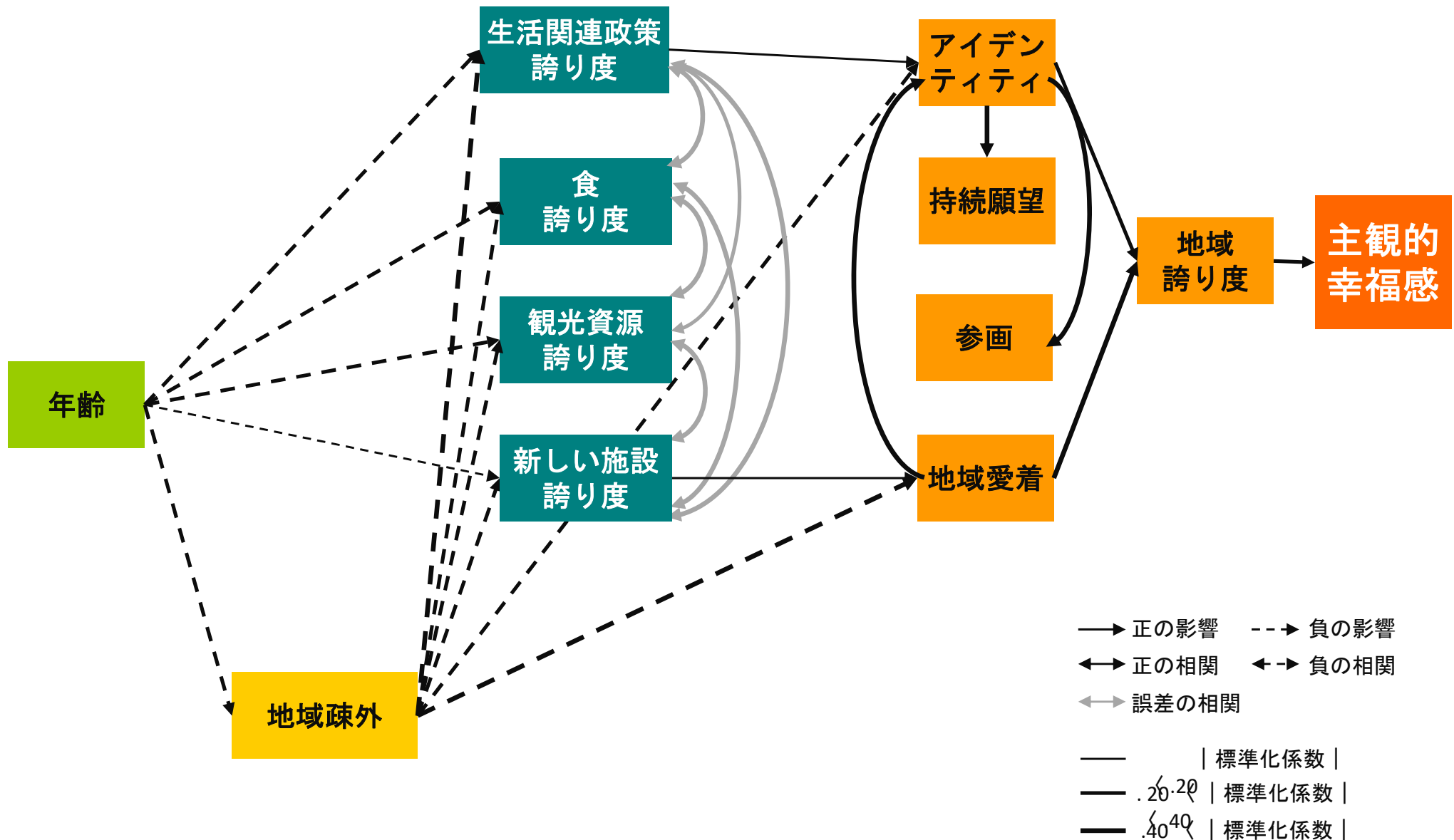
	生活関連 政策	食 因子Ⅱ 食	新_施設 因子Ⅲ 新しい施設	観光資源 地域風土 観光資源	共通性	信頼性分析 (Cronbachのα)
教育制度・環境	0.95	0.09	-0.03	-0.12	0.86	0.92
子育て支援制度	0.88	0.09	0.04	-0.14	0.80	
グローバル教育	0.84	-0.08	0.14	0.00	0.78	
定住促進政策	0.75	0.03	0.07	-0.01	0.65	
高齢者支援サービス	0.70	0.04	0.03	0.15	0.70	
医療体制	0.61	0.12	-0.08	0.17	0.59	
都心からのアクセス	0.59	-0.07	0.10	0.09	0.45	
さかい河岸ブルワリー	-0.12	0.94	0.23	-0.17	0.83	0.90
煎餅	0.13	0.78	-0.21	0.04	0.60	
徳正宗	0.08	0.69	-0.02	0.02	0.57	
梅山豚	0.09	0.67	-0.05	0.07	0.57	
野菜	0.04	0.65	-0.07	0.13	0.57	
さかいサンド	-0.02	0.64	0.18	0.08	0.57	
ホッケーフィールド	0.10	-0.06	0.97	-0.07	0.64	
アーバンスポーツパーク	0.07	-0.07	0.96	-0.03	0.64	0.81
モンテネグロ会館	-0.01	0.22	0.57	0.11	0.64	
境町のアルマ (AVs)	0.09	0.01	0.56	0.21	0.59	
富士山と関宿城	0.14	-0.07	-0.06	0.81	0.68	0.81
菜の花畑	-0.01	0.14	-0.05	0.77	0.71	
さかい丸	-0.18	0.08	0.20	0.72	0.64	
固有値	8.52	8.23	7.13	6.59		
寄与率(%)	50.06	7.30	7.23	3.56		
累積寄与率(%)	50.06	57.35	64.58	68.14		

境町のアルマは
「新しい施設」
に分類された

CP源泉におけるAVsの位置付け_仮説モデル¹

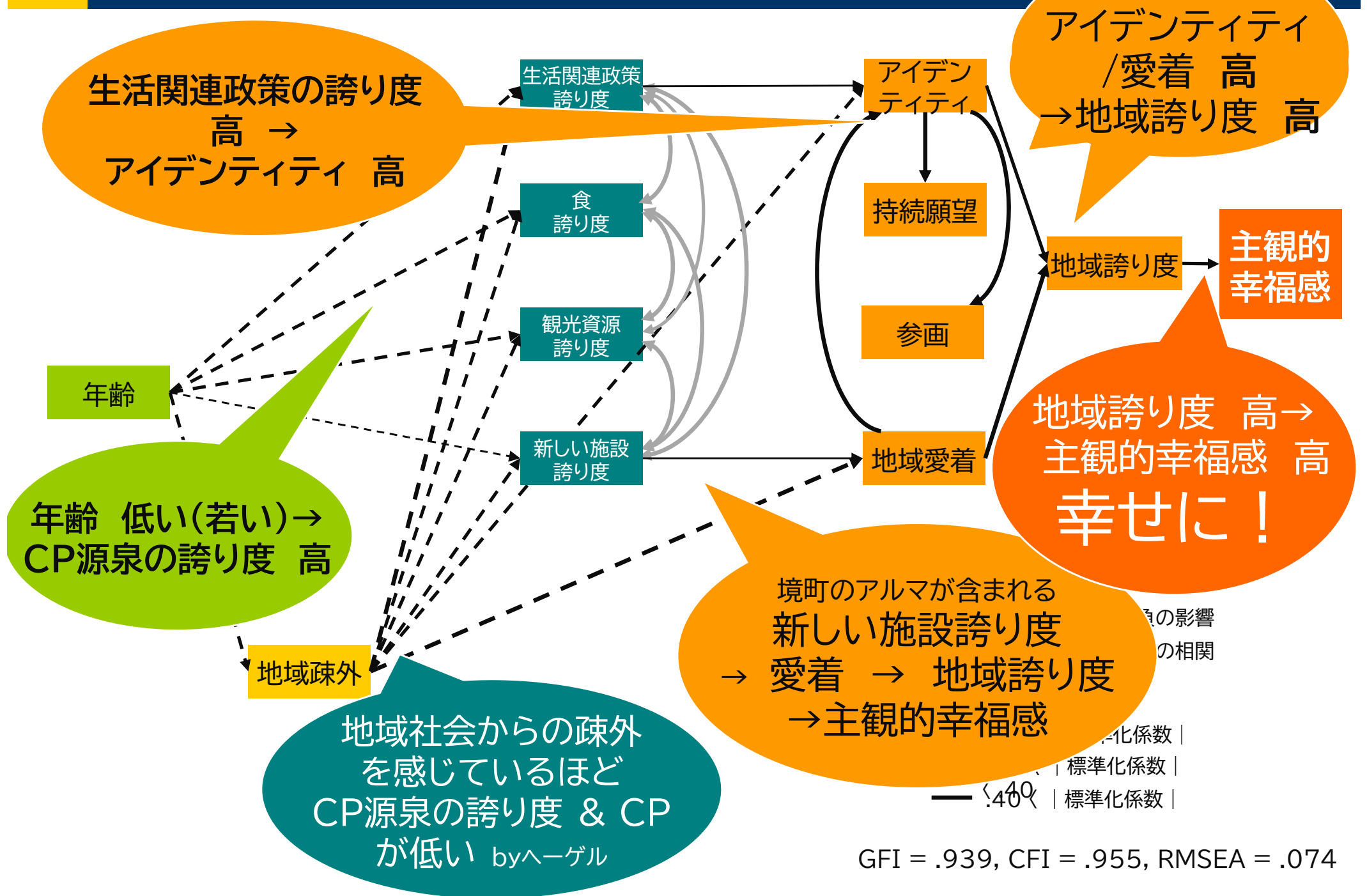


CP源泉におけるAVsの位置付け_分析結果



GFI = .939, CFI = .955, RMSEA = .074

CP源泉におけるAVsの位置付け_分析結果1



まとめ

- **境町のアルマ**はシビックプライドの源泉のうち**新しい施設**として市民に受け入れられている
→境町のアルマがまちの装置として普通になれば、CPの源泉のうち「生活関連政策」として認識されるかもしれない。
 - **境町のアルマ**が含まれる**新しい施設**はシビックプライドのうち、特に**地域愛着** place attachmentを高めている
 - **境町のアルマ**は、**地域愛着**を高め、**地域誇り度**を介して、住民の**主観的幸福感**の向上に寄与している。
- ✓ 境町は最初にAVバスが導入された地域であり、注目度が高いことでCPにつながった可能性もあり、今後、他の地域でも調査分析を続けたい。
 - ✓ 少なくとも日本国内のAVs実証実験/本格運行には、同じ指標で社会的受容を計測すべき。 → **標準的な指標**を用いることを提案中 (柏の葉、岐阜などで検討中)

ありがとうございました。



Public Psychology Lab., University of Tsukuba